

ニヤ物集大廣場カラ九十九

劇團かかせ
新うぶ公演



作・山崎欣太

演 出 たかゆき

演出助手 いしかわ、他2名

大道具 のっぽ

小道具 みつちゃん

照明 ロン君

効 果 マコ

衣装・化装 プッチャン

舞台監督 のっぽ

助手 かわいこちゃん

製作 ロン君

ハクサン	秋 安 兵 衛 彦
材木屋	造
エミコのかあさん	タカチ
紅葉屋の番当	ツウ坊
ハルミ	キヨミツ
ゲンコ	ボッヂ
セツヅウ	ツア
エミコ	セントア
チイコ	オノブ
オノブ	センタ
セントア	チ
モニ	イコ
ロン	オノブ
ビンちゃん	セントア
大ちゃん	キヨミツ
ガク	ボッヂ
良ちゃん	ツア
ブッチャン	セントア
古賀にい	チ

(浜松センター合唱団)

□公演

5月8日(土) PM 6:30~9:00

9日(日) PM 6:30~9:00

児童会館ホール

「カントカラ大場」で手をつなごう!



私っちはみんなで、エミコとセントア結婚させちゃうのよ。——ゲンコ

俺、エミコ好きだけえが、どうにもならすか……。だけえが……。——セントア

セントア、おめえ一人で考えていて解決できる問題じゃあないすら、俺っちはみんなの問題
じやん。——ソウ坊

ふん、証拠不十分クラクラする。僕安彦なの、お判りになつて。——安彦

安彦さん好きだけど三千円もはしかった。三千円というお金でバカな私はだまされてしま
つた。——ハルミ

喜びも悲しみも怒りもみんな以上にもつてている。だが、わしゃおこる事を忘れておつた。
しかしながら…………。——秋造

結婚式をあたしちがやるなんて、おもしろいね。はりきっちやうよ。——チイコ

アンボ、アンボってもうへりつくはよせよ。その日暮しで世帯はもてないよ、おらりあた
つて——キヨミツ

ゼンちゃんはあたしきだましたのかしら。結婚したいっていつても何んにもいつてくれな
い。——エミコ

ふたりは愛し合つてゐるんだ。だから、みんなで結婚させよう!——タカチ

(カンカン広場のなかま)

「みめさんミとあがだミてりさー」ンが！「にエセや場職対に「さのを俺んあせ。はこいら興こそ手せニタでそーあ苦ミンねで場しし私っは通ア自なつたしそろいい味死んをる人アきんとあしコタえー」を、てたてか称イ分とたけかんまよつ半んなつしをとたなう「む。アカボ転こいつに「コのい一れしなで。の分じ入けかいエコあつおハ華と、「タんくるてる、カクこつづば「皆決」までやだや。コミとるぶもル美何くナとなんも結、若シ木としの「セなま」に「うつが」シコを日んしミなかそスとこん婚ポ社カ工だよ問とンをつ会かみわたつ「よはしし、をう。性あつを、とねの、ッ長ラでつに題いタ見て費「んよかた畜にまり仲はくみ格るたあやは。こチ安広労働歩」うアてしを俺な。しん生たま間らねんからわけっし」と、彦場らどくを「とあまあ。つか「らだ！」せ結すはしえならしけたとか素なツの「くう樂考はエさいつちつ正。なせる婚。てな広でく。らはで晴るウ家で若しえじミ笑まめでて義」。ンししさエい「場き顔」と、きこいく「たごたててさてめコいすて結な感「タかてあミます」くあ安彦する円はいすえミさせ、いをいてを相。ね婚こにこ「アない大コすそつことぐれン五めノ結いツら。昼夜判すですがよまハんりい、。やつ結で。や判すがよまハんりい、。やつ結で。やくせん

卷之三

飾りつけがたのしくて仕様がない、チイコ、ノセツウ、エミコのかあさんへ相談にいく才ノブたち。準備は着々とすすめられて行きます。そして結婚式もせまつた日の夕方、花むらんセントアは安彦の金をぬんだ疑いで警察に連れてこられたのです。



(京浜協同劇団舞台より)

者に取り囲まれ、さえられ、手をつなぐ」ということが出来なかつたのである。このような失敗の上に、劇團「新からかせ」は歩みを始めた。

昭和三十九年一月、新制作座来浜により劇を見せる活動に入り、九〇〇名の動員に成功しその中から観客により作り出される演劇を知り始

郷表レバ「トリー」としては、一村の保守党」「爆笑歌」「制服」等を持ち、毎年五月には子供の集いを行い、労音、労演発足の母体をなすなどかずかずの成果をあげてきた。しかし、その活動には継続性がなく、運動としてとらえなかつたので、技術もその公演だけのもので、蓄積されるということが少なかつたのである。また演劇創造にとつて非常に大切な観客に学ぶ」という観点にかけ、「からつかぜの活動はすぐれこ一面を守らなばらも、「働く

劇団「新からっかぜ」は八年の歴史を持つ
からっかぜ」を土台にして、昭和三十八年八月
十日誕生した。

「からっかぜ」は一九五四年（昭和二十九年）
ビキニでアメリカの核実験により第五福竜丸が
死の灰をかぶった年に浜松で始めての自立劇団
として発会し、浜松を中心として地方文化向上
の一翼を受け持ち、その地域に文化状況を作り
出してきた。

△劇団の紹介△

腹の底をぶちまけ　おれたちの

明るい明日を勝ちとつていこう

演出　西村たかゆき

「カンカラ廣場に集まれ」は、ある小さな木工場の若者の生活をごく自然に、わかり易く、生き生きと描いています。一人一人が、私達の代表選手であり、俺たち、私たちにそつくりの若者がたくさん出て来ます。

この若者達は、あくどい、するがしこい社長のために、毎日毎日残業や社長の私用までさせられるようなつらい仕事のくりかえしです。その上賃金は、六、七千円で食っていくのが精一ぱいという生活状態です。

その中でも、若者達は底ぬけの明るさをもっているのです。初めのうちは、「他人のことは知らないよ。」とか「あ、やんなっちゃうな。なんかいいことないかな。」という自分中心のものですが、センタアとエミコの結婚式をやる中で、いつのまにか手を結んで、でっかい声で笑っているのです。「俺達で結婚式がやれるだろか?」「こんな広場で結婚式をするなんて馬鹿々々しい」といついた若者までも、若社長(バカ息子)のするがしこい、いやらしい態度を見て、ガツチリとスクランムを組んで、自分達の幸せを勝ちとつていいのです。それにこの日(一九六〇年六月四日)は、「安保反対」の日本歴史にはじめてゼネラリストライキ(すべての産業、工場がいっせいに仕事をやめること)が成功した日で、働く人々の最もうれしい日なのです。戦争のための安保条約なんて反対だ!という要求で、全国の働く仲間が苦しい生活を一步でもよくしようと、ガツチリと手をつけない日なのです。芝居の中でセンデンカーがそのことを声高らかに歌いあけています。カンカラの若者達もそれ負けずといいます。ケイコ場に、合評会に働くみなさんのきびしい批判を、おねがいします。

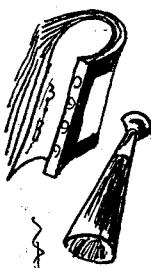
働く若者はみな同じなんだ。一人一人では小っぽけでもその友情の力が何本も一つになるならば、やれないことはないんだ。さあ、みんな腹の底をぶちまけて、俺達の幸せを、俺達の手で築いていこう。カンカラはこういう芝居です。私達も、この若者達に負けまいとガンバッ

めたのである。

昭和三十九年七月、第一回公演「神無月」を行った。

劇団員の意見も統一されておらず、演劇にとつて致命的な舞台上のアンサンブルにかけたまま公演にのぞみ、終演後の合評会で自分達の未熟さと観客への責任のなさを思い知られた。その中から得たものは、「①誰の立場で誰に見せるのかを明確にしなくてはならない」ということ。②自己満足の演劇であつてはならないこと。③劇団員と劇団の要求を統一させること。この三点が観客への責任に結びつくのである。

昭和三十九年十一月、第二回定期総会がもたらされた。「神無月」からもらった課題のもとに「働くものの生活の中から、働くものの生活と共に、働くものの演劇を作つていいこう。」という方針がだされ、同じような演劇運動にとりくんでいる東日本ブリリアズム演劇会議に加盟を決定した。「カンカラ!」台本は「働く若者達が生きるささえなる底ぬけに明るい芝居なんだ」ということで昭和三十九年九月に決定した。現在劇団員は二十一名、研究生六名、家族の反対や職場の圧力や結婚問題などいろいろな悩みをかかえながら、そして一步ずつ自分を鍛えあがら働く者の演劇を創りだしつつある。(四〇・三・三十一)



「カンカラ」を成功させてください

浜松演劇観賞協議会

田中清馬

新からつかせ公演

「カンカラ広場に集まれ」は、劇団新からかぜの第二回公演だ。正直なところ私は、第一回公演の「神無月」には失望した。だから、今度の「カンカラ」に大きな期待を寄せているのだ。

劇団新からかぜは、浜松にいくつかある自立劇団の中できわ立った特徴を示している。たいへん強い主張がある。強い姿勢がある。だから、私は新からかぜの発展に特別の関心がある。豊かに成長することを願っている。その強さが、しなやかな強さになっていくことを願っている。その、一見壮大な意図を秘めた方針が実現することを願っている。とにかく、第二公演を観よう。

演劇観賞協議会は、発足以来三年になる。よちよち歩きた。この地域の自立劇団との相互関係をどのようにしたらいいかは、まだ手さぐりだ。それぞれ独自の活動を進めながら影響しあい、助け合って浜松地方の演劇戦線を強めることに役立ちたい。今は演劇協の力不足のために新からかせからたすけられているばかりだ。これも何とかしたい。
さて、再び「カンカラ」公演へもどると、いくつか気がかりなことがある。公演日が延期にならったことがそうだし、幾人かの退団者が出来たこともそうだ。一方で劇団員のことばつきなどからは、すごい確信に満ちた有様がうかがえる。第二回公演の舞台が成功をおさめて、私の不安を吹きとばしてくれることを願ってい。

浜松センター合図長　山下謙郎

友の会だより

「カンカラ広場にあつまれ」

多くの人々に観てもらいたいんだ

浜松サークル協議会準備会

大石 優

カンカラの台本を読んで、この芝居でてくる人物は、皆私達の身の回りに居る労働者であり、木工場の社長にしてもどこにいっても顔を合わせている様な社長の様に思います。小さな木工場で働いている人達は、人數が少ないので、家庭的な暖い人間関係が出来て居る様に思いますが、実はそうではないのです。私達の所にも、中小の工場が無数にあります。そこで働く若者は皆多くの悩みをもっています。町を歩いているカッコイイ若者は本当は孤独でさびしがりやなのです。ジーパン姿の若者は、そういうカッコをすることにより自分の存在を主張しているのです。だからこそいこたん団結したら、彼等は、その小さな輪をどんどん広げて行きます。私達のサークルにはじめは一人ばかりで、人を信じたり、会社の中で仲間の結婚式をやるなんておそれを考えもしめたかったでしよう。しかし、同じ人生を楽しく明かるい生活に変え又、若者達の人生を固く結び合つたでしょ。しかし、同じ悩みを持ち、同じ様な境遇の中での、眞実に生きようと思う人々は、何かのきっかけで、社会を変えてゆく輪にかわってゆく。

●公演日程●

5月8日(土) PM 6:30~9:00
9日(日) PM 6:30~9:00

児童会館ホール

6月 地方移動公演
7月 3回予定

ラはその様な芝居であると思う。劇団新からつかせの人達は、みんな元気のある若者達で、一生県命にケイコに取り組んでいるその姿そのものが、私達サークルの人達にとつて、はげましと勇気を与えてくれる。私は、このカンカラの成功を心から願うと同時に、多くの仲間が、この公演をまつて居るということを劇団の仲間に伝えたいと思います。私は、今回カンカラの実行委員の一人として、この演劇から又、劇団の仲間と多くのサークルの仲間、働く人々から様々なことを学ぶことができると思ってます。一人でも多くの若者や働く人々にこのカンカラをみてもらい、語り合いたいと思っています。劇団の人達のいい力となるのだ。ガバロー。

!!つぶてとかがり火!!

静芸

○8月1日 浜松公演
(市民会館)

○内容

荒木栄の静芸への手紙

「つぶては敵に対するいかりと、にくしみ、かがり火は働く人々が進んでいく道を輝し出す火」

荒木栄が三池斗争の中で自己変革していくことをえがいたもの



スポーツ用品の総合センター

スポーツ店 油屋

田町ショッピングセンター

TEL ③0339 ③0737 ③6343

正しいメガネでしあわせを

メガネの吉田屋

浜松駅前広小路通り

TEL ②2846 ②9204

◇ 黄金まんじゅう

◇ アイスまんじゅう

◇ 雪印アイスクリームの

三井屋

長崎屋通り

女性専科

ステータスマーケットアツフ品

ぬい屋

浜松 有楽街



ハンドバッグ
旅行かばん
ベルト

マツクラ

浜松市田町(中央劇場前)

TEL ③2796

中華ソバ

浪花

柳通り

祝

カンカラ成功おめでとう

浜松演観協

田町三番ビル内

TEL (3)9653

高級婦人
内外靴下

チャーム

ニュー よか楼
TEL (3)8739

紳士・婦人・子供
内外靴下

石津商店

広小路電建前
4613
TEL (3) 3701